

## 不健康には税金を！？「ポテチ税」ついに導入へ

ファイナンシャルプランナー 加藤梨里

「ダイエットや健康のためには、脂肪の多いお菓子は食べすぎない方が良い・・・」とはわかっているけど、小腹がすいているとつい手が伸びてしまうのがポテトチップスなどのスナック菓子。コンビニやスーパーでのお買い物で、気づくと買ってしまおう、という方もいらっしゃるかもしれません。でも、これからはそんなポテトチップスの誘惑に、ますます負けられなくなりそうです。それは、**塩分や糖分の高い食品に課税する通称「ポテチ税」が導入されることになったから**です！

### ■ポテチ税とは・・・

「ポテチ税」なんて聞いていないけど・・・という方が大半でしょう。そうです。これは日本での話ではありません。ハンガリーで財政再建を目的に、**2011年9月から導入された税金**です。

9月1日から施行される「ポテチ税」は、**糖分や塩分が高い食品や、炭水化物やカフェイン含有量の高い食品に課税するという税金**です。課税対象には、**ポテトチップスだけではなく、袋入りスナック菓子、包装された市販のケーキ、クッキー、炭酸飲料、栄養ドリンク**なども含まれます。ちなみに、ハンガリーの伝統食品には、ソーセージやサラミ、ラード（豚脂）製品などがあるそうですが、これらは当初の法案では課税対象だったものの、最終的に課税対象から外れたそうです。

具体的な課税額は、ポテトチップスが200フォリント（日本円で約80円）、高糖分の飲料で1リットルにつき5フォリント（約2円）。栄養ドリンクの場合は1リットルで250フォリント（約105円）。ケーキやクッキー類は1キロあたり100フォリント（約42円）から200フォリント（約84円）などとのこと。<sup>(※1)</sup> 税負担感としては、日本の消費税と同じくらいかそれより安い水準と考えられます。

### ■世界に広がるポテチ税—そのワケは？

「ポテチ税」のように、健康のために良くない食品にかかる税金は、通称“**ジャンクフード税**”とも呼ばれ、近年さまざまな形で世界各地にて導入が検討されてきています。

2009年末に、台湾が世界で初めてジャンクフードに課税する方針を表明して以来、アメリカ、フランス、イギリス、カナダ、ルーマニアなどでも相次いで導入案が提出されたり、議論が行われたりしています。ですから、日本に住む私たちも、近い将来に「ポテチ税」を払うことになるかもしれません。

では、このような“ジャンクフード税”の導入が世界で広まっているのはなぜなのでしょう。各国が前面に掲げている目的は、**脂質や塩分の高い食糧摂取を抑制することによって、急速に増加している生活習慣病を予防する**、ということです。しかし、実はそれだけではありません。

ハンガリー政府はこの税制の導入によって、**年7,400万ユーロ（約81億2300万円）相当の税収アップ**を期待しているようです。日本でも先月から、東日本大震災の復興財源としてたばこ税の増税による収入を充てるという案が出され、論議を呼んでいます。税金は国の財政状態を改善する頼み綱なのです。

### ■ポテチ税の効果が大きいのは、国民の健康か？それとも税収か？

しかし税金の導入は、一般的に課税対象になるモノの消費を抑制する効果を持っています。特に“ジャンクフード税”の場合は、たばこ税などとは違い、食糧という国民にとって関りのあるモノを対象にしていますから、消費量への影響は相当大きなものになるでしょう。とすると、ジャンクフードの消費が減れば、そこから徴収で

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

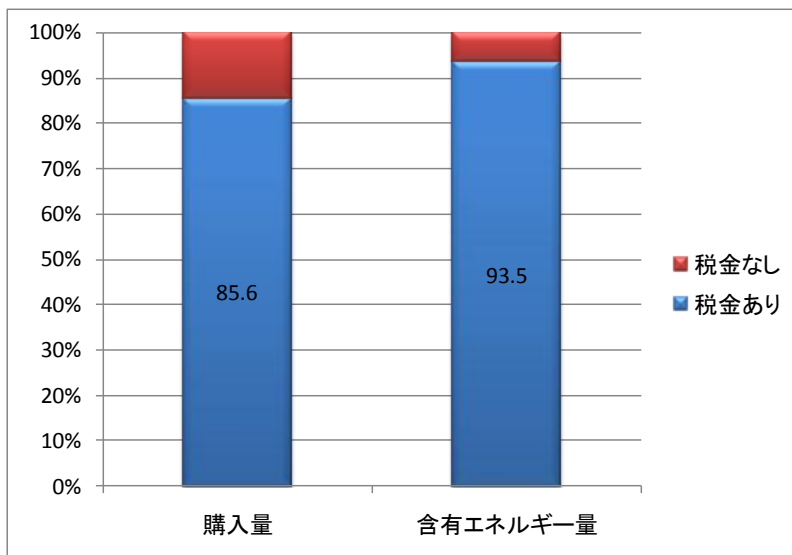
きる税額もさほど大きくないのでは？という疑問もわいてきます。

ジャンクフードの消費量が減って国民の健康度が増す効果と、税収が増す効果一、ポテチ税がどちらにより大きな効果をもたらすかは、現段階でははっきりとわかりません。ただ、この疑問のヒントになる研究結果が、アメリカで発表されています。

それは、「高脂肪で糖分の多いジャンクフードに課税する方が、果物や野菜などのヘルシーな食品を安くするよりも、摂取エネルギー量を減少させる効果がある」というものです。

2010年2月に、米ニューヨーク（New York）州立大学バッファロー校（University at Buffalo）の研究チームが行ったこの研究では、子どもを持つ女性42人にそれぞれ22ドル（約2000円）を渡し、研究室に設置した「スーパーマーケット」内で1週間分の買い物を5回してもらった実験を行いました。

5回の買い物のうち、1回目はすべての商品の価格は地元スーパーと同程度の値段設定としました。2～3回目はヘルシーな食品・飲料の価格が下げられ、4～5回目はヘルシーではない食品・飲料の価格が上げられました。



その結果、ジャンクフードの価格が上昇したときは、ヘルシーな食品の価格が下がったときよりも、購入した食品・飲料に含まれるエネルギー量が減少しました。ジャンクフードに課税したとして価格を上昇させた場合は、被験者は高エネルギーで栄養価の低いジャンクフードを買わずに、低エネルギーの食品を購入するので、摂取エネルギー量が抑えられました。これに対してヘルシーな食品の価格が下がったときは、摂取エネルギー量は増えてしまうのです。

図：ジャンクフードへの課税による購入量・食品の含有エネルギー量の変化（税金がない時を100とした場合の割合。筆者作成）

これは、前者の場合は「ジャンクフードを食べると税金もかかるし、健康にも良くないから、買うのも食べるものやめよう」とブレーキがかかるのに対して、後者の場合は「ヘルシーな食品が安いから、多目に買っておこう。多目に食べても大丈夫だろう。」と油断して食べ過ぎてしまうのかもしれない。

このように考えると、「ポテチ税」はやはり、税収よりも国民の健康度アップにより効果を発揮してくれる、と推測できます。

毎日健康的な食事を心がけることは、なかなか簡単なことではありません。でも、税金がかかるとなると、誘惑に負けてつい食べてしまう、ということも防げるかもしれません。ポテトチップスのような脂肪の多い食品を控えて、体の脂肪もカットしながら、お菓子を買う無駄遣いも一緒にカットできたら、家計にも健康にも嬉しいダイエットができそうですね！

※1 出典：AFP 通信ニュース